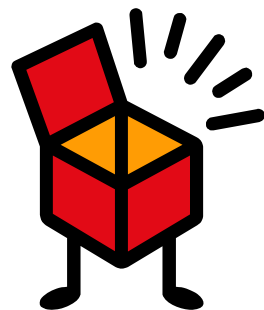


日立金属株式会社  
2009年度第3四半期決算説明



Materials Mag!c

2010年2月2日

 日立金属株式会社  
Hitachi Metals, Ltd.

<http://www.hitachi-metals.co.jp>

E-Mail : [hmir@hitachi-metals.co.jp](mailto:hmir@hitachi-metals.co.jp)

## 09年度第3四半期(09/10-12)

### ■売上高・営業利益

売上高 1,129億円 (09/2Q対比 110%)、営業利益 71億円 (09/2Q対比 +61億円)  
販売数量および稼働増の効果により、売上・利益とも順調に推移

### ■需要動向

エレクトロニクス関連 : 液晶、半導体向けなど、旺盛な需要が持続、堅調に推移  
自動車関連分野 : 国内外ともに3Q後半にかけ回復が鮮明となり、数量ベースで増加基調  
産業インフラ分野 : 設備投資抑制の影響が残るものの、FA向けなど一部製品は回復傾向に

### ■セグメント別動向(売上高・営業利益)

高級金属製品セグメント : 売上高506億円(09/2Q対比108%)、営業利益39億円(09/2Q対比+39億円)  
電子・情報部品セグメント : // 271億円(09/2Q対比112%)、 // 29億円(09/2Q対比+21億円)  
高級機能部品セグメント : // 380億円(09/2Q対比113%)、 // 25億円(09/2Q対比+16億円)

## 09年度見込

自動車・エレクトロニクス関連は順調に推移しており、工具鋼をはじめとする一部製品の在庫調整も年度末にかけ完了に向かう見込み。現在の趨勢に大きな変化はないと見込むが、設備投資関連の需要回復遅れの影響などもあり、年度見込は売上高・利益とも予想を据え置く。

# 2009年度連結業績要約

(単位:億円)

	2007年度				2008年度				2009年度			
	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	年度 実績	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	年度 実績	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	年度 (予想)
売上高	1,724	1,739	1,811	7,011	1,756	1,781	1,430	5,907	925	1,028	1,129 09/2Q比 110%	4,400 08年度比 74%
営業利益	125	141	176	597	154	143	32	151	△45	10	71 09/2Q比 +61	100 08年度比 △51
経常利益	135	115	176	544	174	123	△3	102	△55	△6	64 09/2Q比 +70	65 08年度比 △37
(特別損益)	36	△42	△0	△30	△0	△0	△43	△104	△1	△25	△3 09/2Q比 +22	△40 08年度比 +64
税前利益	171	73	176	514	174	123	△46	△2	△56	△31	61 09/2Q比 +92	25 08年度比 +27
当期純利益	86	40	98	270	87	66	△57	△30	△37	△20	28 09/2Q比 +48	10 08年度比 +40
設備投資額	156	102	97	493	82	115	110	438	52	34	32 09/2Q比 △2	198 08年度比 △240
減価償却費	73	67	79	294	75	78	81	318	74	75	78 09/2Q比 +3	307 08年度比 △11
研究開発費	31	36	32	133	33	34	31	131	24	26	27 09/2Q比 +1	108 08年度比 △23

# 2009年度第3四半期業績

**売上高 1,129億円** 09/2Q比 110% (08/3Q比 79%)

高級金属製品セグメント 506億円 09/2Q比 108% (08/3Q比77%)  
 電子・情報部品セグメント 271億円 09/2Q比 112% (08/3Q比82%)  
 高級機能部品セグメント 380億円 09/2Q比 113% (08/3Q比82%)

## ■高級金属製品セグメント

特殊鋼の電子金属材料は半導体、液晶向けともに好調持続。工具鋼は自動車向けを中心に回復、4Qも堅調に推移する見込み。ロールは在庫調整の影響を受け需要減少が続いていたが、4Qより回復を見込む。

## ■電子・情報部品セグメント

マグネットは、PC・家電向けは堅調、自動車向けもEPS等を中心とした環境対応関連が堅調に推移。FA向けも緩やかに回復の兆し。情報部品は円高の影響を受け計画に対し減少。アモルファス(軟磁性材料)は、中国市場向けが需要足踏みとなり減少。

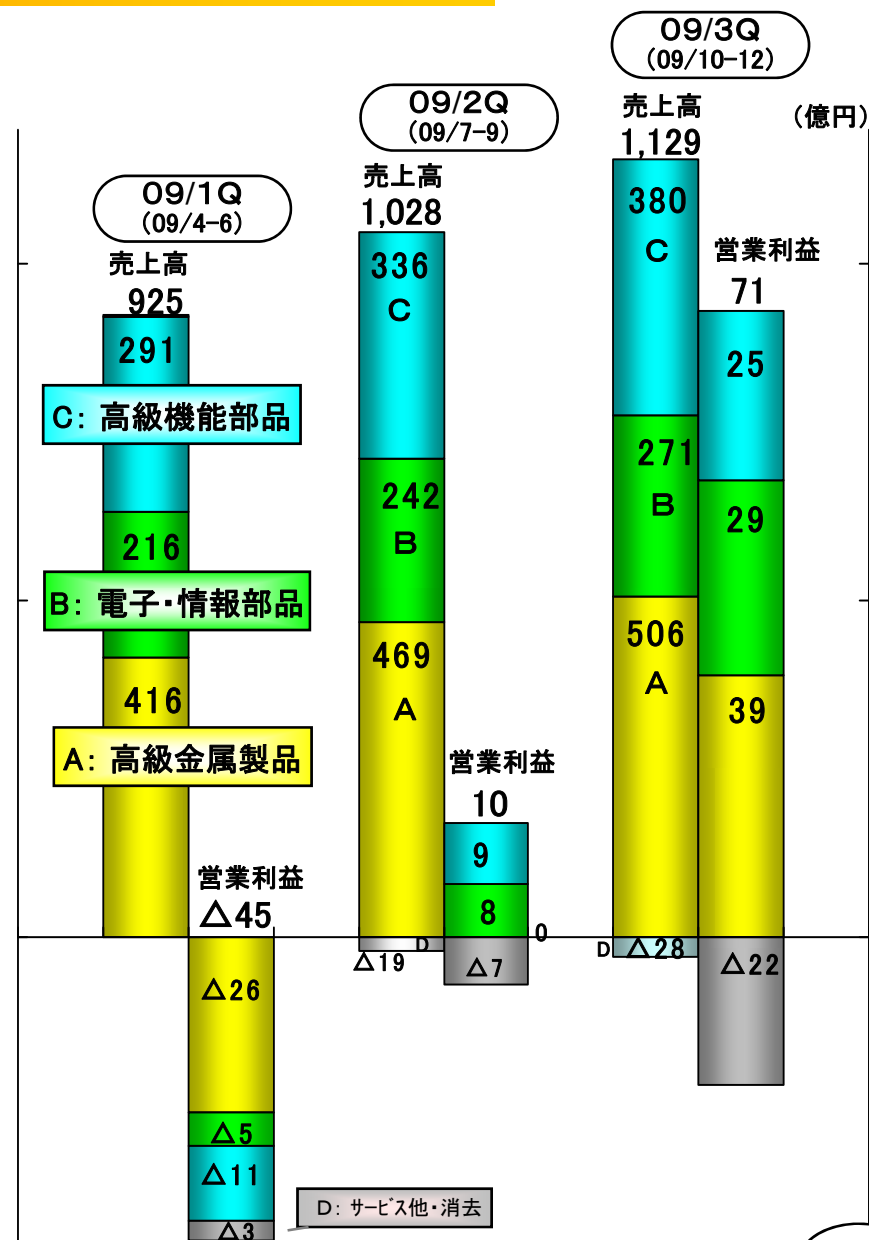
## ■高級機能部品セグメント

自動車用鋳物は、ダクタイル鋳鉄は米国を中心に好調に推移、日本・米国・韓国とも計画を上回る生産量に。ハーキュナイトは欧州を中心に増加基調。アルミホイールは日米ともに好調持続、今後も堅調の見込。配管機器は設備投資抑制の影響により需要低迷が続く。

**営業利益 71億円** 09/2Q比 +61億円 (08/3Q比 +39億円)

高級金属製品セグメント 39億円 09/2Q比 +39億円 (08/3Q比+35億円)  
 電子・情報部品セグメント 29億円 09/2Q比+21億円 (08/3Q比+ 8億円)  
 高級機能部品セグメント 25億円 09/2Q比 +16億円 (08/3Q比+ 8億円)

エレクトロニクス分野に加え、自動車関連分野の回復も鮮明となり、販売数量および稼働増の効果により、09/2Q比で61億円の改善となった。



# 2009年度業績予想

売上高 4,400億円 前年度比74% (予想据え置き)  
 営業利益 100億円 前年度比51億円減(予想据え置き)

## ■高級金属製品セグメント

売上高 1,900億円 (08年度比72%)  
 営業利益 36億円 (08年度比△21億円)

## ■電子・情報部品セグメント

売上高 1,100億円 (08年度比80%)  
 営業利益 75億円 (08年度比△18億円)

## ■高級機能部品セグメント

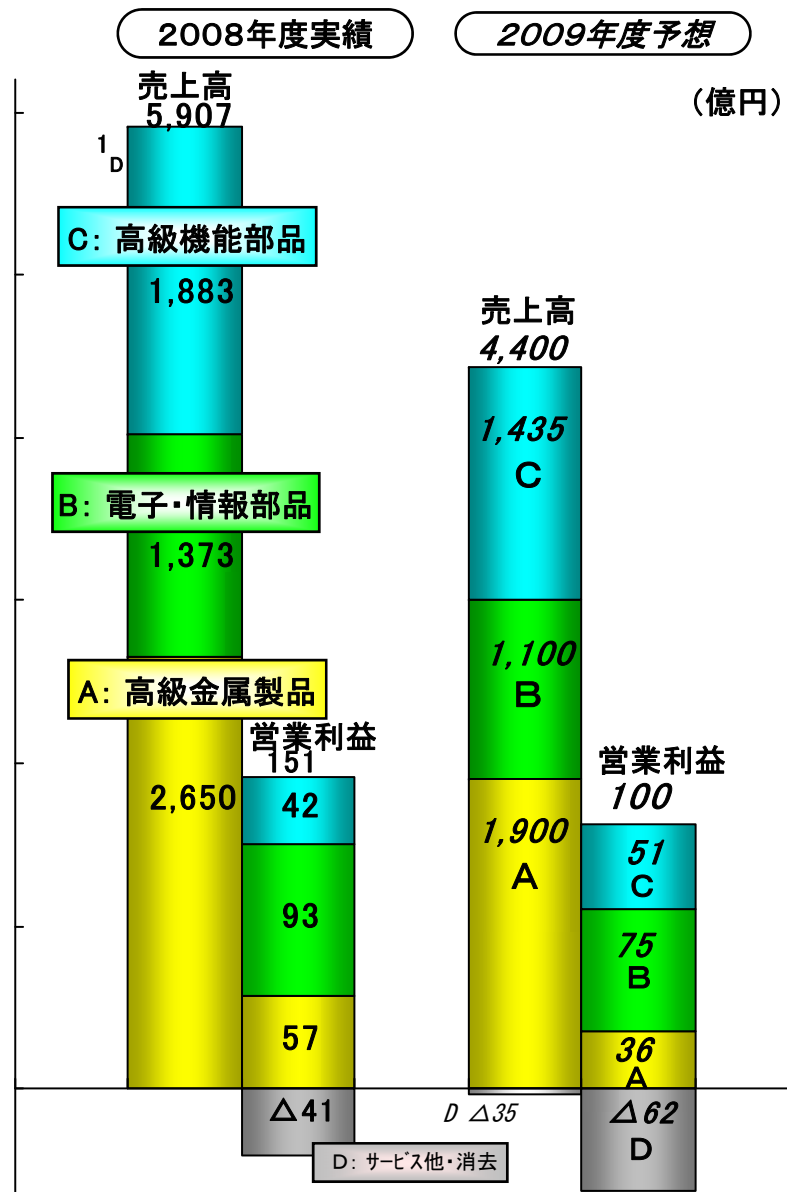
売上高 1,435億円 (08年度比76%)  
 営業利益 51億円 (08年度比+9億円)

## ■サービス他・全社消去

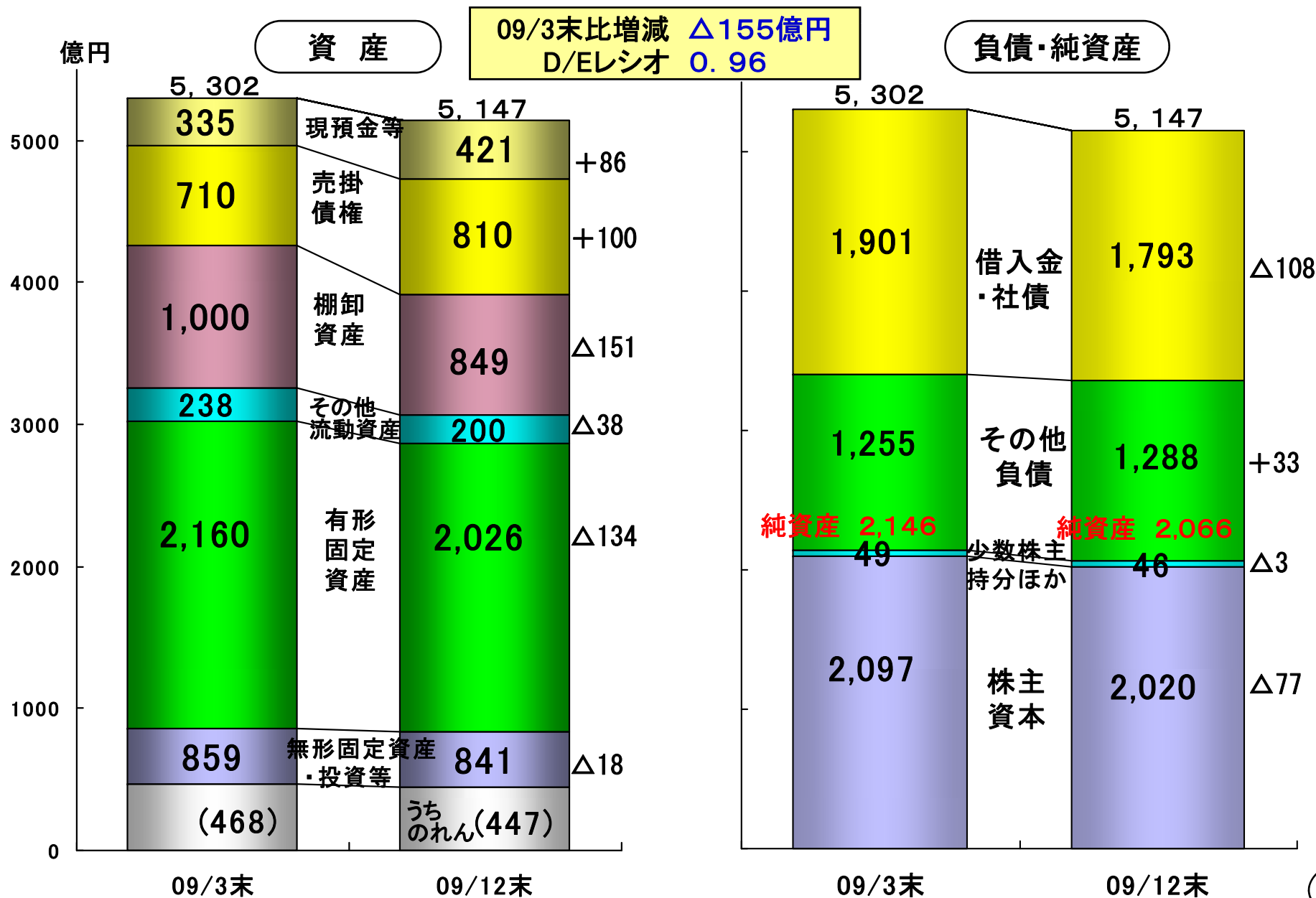
売上高 △35億円  
 営業利益 △62億円

自動車・エレクトロニクス関連分野とも順調に推移しており、  
 工具鋼をはじめとする一部製品の在庫調整も年度末に  
 かけ完了に向かう見込み。

第4四半期においても、現在の趨勢に大きな変化はないと  
 見込むが、設備投資関連の需要回復遅れの影響などもあり、  
 年度見込は売上高・利益とも予想を据え置く。



# 連結B/S残高



# 連結キャッシュ・フロー

(億円)

科 目	08年度 第3四半期累計	09年度 第3四半期累計
現金及び現金同等物期首残高	478	335
税金等調整前当期利益	251	△26
減価償却費	234	227
設備投資	△307	△118
その他	△179	168
<b>フリーキャッシュ・フロー</b>	<b>△1</b>	<b>251</b>
借入金・社債の増減	△2	△96
配当金支払他	△77	△64
<b>ネットキャッシュ・フロー</b>	<b>△80</b>	<b>91</b>
為替換算差額他	△33	△5
現金及び現金同等物期末残高	365	421

(注) 設備投資は検収ベース、08年度は受取利息・配当、支払利息組替後

# (参考)各セグメントの事業構成

## 高級金属製品

特殊鋼カンパニー

ロールカンパニー

日立ツールグループ

## 電子・情報部品

NEOMAXカンパニー

情報部品カンパニー

軟磁性材料カンパニー

## 高級機能部品

自動車機器カンパニー

配管機器カンパニー

日立機材グループ

## サービス他

販売・サービス会社

その他製造会社





本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となるもの主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米国、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動